

卒業論文 2025 年度(令和 7 年)

RG における卒論 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X テンプレート 2025 改

慶應義塾大学大学 環境情報学部  
仁戸田晃

卒業論文要旨 - 2025 年度 (令和 7 年度)

RG における卒論 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X テンプレート 2025 改

近年，書き始めが近年な論文が多い。ちゃんと特徴的な事象があるならそれを挙げて，  
“近年”なんて曖昧ワードを使うんじゃない馬鹿者。

キーワード：

1. 卒業論文, 2. 村井純研究室, 3. RG, 4. LaTeX

慶應義塾大学大学 環境情報学部  
仁戸田晃

Abstract of Bachelor's Thesis - Academic Year 2025

**L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>XTemplate for RG 2025**

I can't write English.

Keywords :

1. Thesis, 2. RG, 3. Jun Murai Lab., 4. L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X

Keio University Faculty of Environment and Information Studies

Akira Nieda

# 目 次

<b>第 1 章 序論</b>	<b>1</b>
1.1 はじめに . . . . .	1
1.2 本論文の構成 . . . . .	1
<b>第 2 章 背景</b>	<b>2</b>
2.1 卒業論文の執筆 . . . . .	2
<b>第 3 章 本研究における問題定義</b>	<b>3</b>
<b>第 4 章 提案手法</b>	<b>4</b>
4.1 概要 . . . . .	4
<b>第 5 章 実装</b>	<b>5</b>
5.1 概要 . . . . .	5
<b>第 6 章 評価</b>	<b>6</b>
6.1 評価内容 . . . . .	6
<b>第 7 章 結論</b>	<b>7</b>
7.1 本研究のまとめ . . . . .	7
7.2 本研究の課題 . . . . .	7
<b>謝辞</b>	<b>8</b>

# 図 目 次

# 表 目 次

# 第1章 序論

本章では本研究の背景、課題及び手法を提示し、本研究の概要を示す。

## 1.1 はじめに

慶應義塾大学SFCでは、卒業要件として卒業論文の執筆が必要とされている。近年、多くの学生が提出間近になってから卒論を執筆することが多くなっている。こうした学生の多くは、残留を繰り返し、魔剣を飲みながらデスレースを実施することとなる。

の中でも、 $\text{\LaTeX}$ の理解は執筆において不可欠であり避けられない。しかしながら、多くの学生はWIP/TERMで予稿の執筆を怠り、いざ執筆を始めようとしても $\text{\LaTeX}$ を用いて論文を執筆することが難しい。

そこで、本研究ではRGの学生に向けて心優しい博士課程として、RGの卒業論文のスタイルに合った形であると言われているテンプレートを整理し、提供する。本テンプレートでは、基本的な章立ての中で、 $\text{\LaTeX}$ の使い方を概説し、このクソみたいな文章を削除し、卒業論文を執筆するにあたって基本的な記法を理解できることを期待する。

なお、Bitcoin [?] は関係ない。

## 1.2 本論文の構成

本論文における以降の構成は次の通りである。

2章では、背景を述べる。3章では、本研究における問題の定義と、解決するための要件の整理を行う。4章では、本研究の提案手法を述べる。5章では、4章で述べたシステムの実装について述べる。6章では、3章で求められた課題に対しての評価を行い、考察する。7章では、本研究のまとめと今後の課題についてまとめる。

# 第2章 背景

本章では本研究の背景について述べる。

## 2.1 卒業論文の執筆

慶應義塾大学SFCでは、卒業要件として卒業論文の執筆が必要とされている。近年、多くの学生が提出間近になってから卒論を執筆することが多くなっている。こうした学生の多くは、残留を繰り返し、魔剤を飲みながらデスレースを実施することとなる。

## 第3章 本研究における問題定義

# **第4章 提案手法**

本章では提案手法について述べる。

## **4.1 概要**

# 第5章 実装

本章では提案手法の実装について述べる。

## 5.1 概要

# **第6章 評価**

本章では、提案システムの評価について述べる。

## **6.1 評価内容**

# **第7章 結論**

本章では、本研究のまとめと今後の課題を示す。

## **7.1 本研究のまとめ**

## **7.2 本研究の課題**

# 謝辞

俺に関わった全てに感謝

# 参考文献